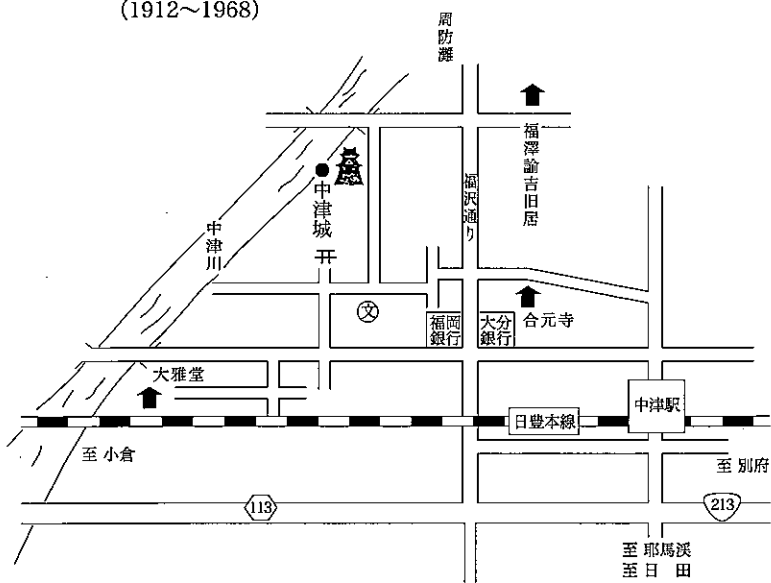




双葉山
(第三十五代横綱)
(1912~1968)

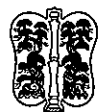


福澤諭吉
(1835~1901)



中津城

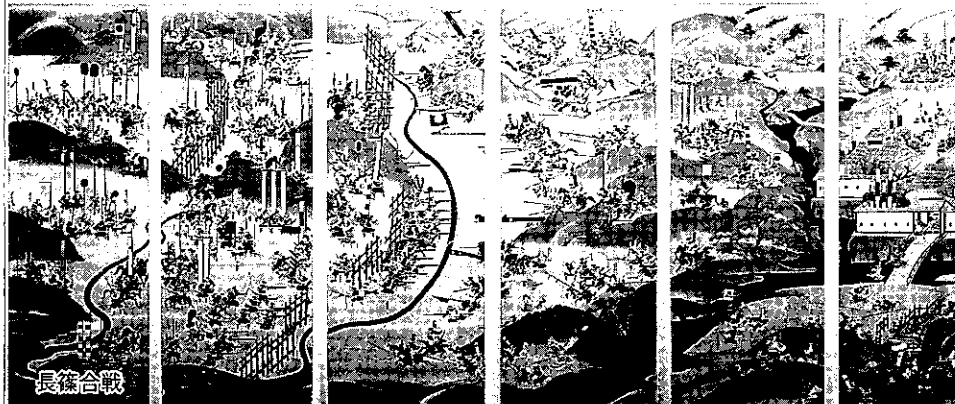
〒871-0050 大分県中津市二ノ丁本丸 電話 0979-22-3651



中津城



中津城



長篠合戦

天正16年(1588)築城

黒田孝高(如水)が豊臣秀吉の命令により九州を平定し、中津16万石を拝領して天正16年(1588)、中津川河口周防灘に臨むこの城を築きました。

城郭面積は23,287坪、地形が北より南方に扇状をなしているため、中津城の別名を扇城と云います。本丸石垣、内濠は当時のままで水門より海水が入って潮の満干で濠の水が増減している水域です。

享保13年(1728)藩主奥平昌成、中津城北門鉄砲場山国川に水位を計る測水標を設置、我国量水標の初めと記録されています。

中津城歴代城主

黒田時代

黒田 孝 高 (如水) 天正15年(1587) 入城 16万石
" 長 政 (長子) 慶長5年(1600) 関ヶ原戦功福岡52万石に移封

細川時代

細川 忠 興 (三斎) 慶長5年(1600) 入城 京都田辺より中津32万石
" 忠 利 (長子) 寛永9年(1632) 大坂役の後熊本54万石に移封

小笠原時代

小笠原 長 次 寛永9年(1632) 大坂役の後兵庫龍野より中津8万石
" 長 勝 寛文6年(1666) 長次の封をつぎ島原の乱後10万石
" 長 胤 天和2年(1682) 長勝の封をつぐ
" 長 円 元禄11年(1698) 長胤の封をつぐ
" 長 崋 正徳3年(1713) 長円の封をつぐ 享保元年嗣なく亡ぶ

奥平時代

奥平 昌 成 昌章長子 享保2年(1717) 丹後宮津より入城 10万石
" 昌 敦 昌成次男 延享2年(1745) 昌成の封をつぐ 10万石
" 昌 鹿 昌敦長子 宝暦8年(1758) 昌敦の封をつぐ 10万石
" 昌 男 昌鹿長子 安永9年(1780) 昌鹿の封をつぐ 10万石
" 昌 高 鹿兒島 島津重豪次男 天明6年(1786) 封をつぐ 10万石
" 昌 暢 昌高次男 文政8年(1825) 封をつぐ 10万石
" 昌 猷 昌高五男 天保3年(1832) 封をつぐ 10万石
" 昌 服 昌暢長子 天保13年(1842) 封をつぐ 10万石
" 昌 邁 宇和島 伊達宗城三男 慶応元年(1865) 封をつぐ 10万石

明治2年廃藩

奥平神社

奥平神社は中津城本丸・上壇に在り御祭神は奥平中興の祖を祀る。
第一代貞能公(智勇)第二代信昌公(仁徳)第三代家昌公(義氣)仙丸君靈神。
祭神の偉大なる人格は戦国の兵乱を鎮め、世の太平を来たす力があつた。
毎年5月21日の祭礼日(たにし祭)は、戦国時代天正3年(1575)、長篠の戦で奥平の軍勢500人は武田勝頼軍15,000人に攻められたが、長篠城でタニシを食べ籠城、徳川・織田の連合軍をまち、武田勢を破り勝った故事より催されている。二代信昌公の御室は徳川家康長女亀姫。三代家昌公は家康の孫、大正5年本神社は大本県社に列す。

奥平家系譜

村上天皇皇子具平親王第二十六代奥平貞能(第一代)三河國作手亀山城主、
第二代信昌 長篠城主新城城主岐阜加納城主、第三代家昌 宇都宮城主、
第四代忠昌 宇都宮城主古河城主、第五代昌能 宇都宮城主山形城主、
第六代昌章 山形城主宇都宮城主、第七代昌成 宇都宮城主丹後宮津城主
中津城主、第八代昌敦 第九代昌鹿 第十代昌男 第十一代昌高
第十二代昌暢 第十三代昌猷 第十四代昌服 第十五代昌邁
第七代~第十五代 155年間中津城主

天守閣

天守台石垣は黒田孝高の築城で「野面積」慶長15年細川忠興が増築の石積みは「打込みはぎ積」東西42米、南北40米、高さ8米。
天守閣は昭和39年、東京工業大学・藤岡通夫博士設計、地下1階5層5階
高さ23米、鱧1.4米、床面積延795平方米。奥平宗家第17代当主奥平昌
信らが中心となり新たに造営し管理、運営している。

展示宝物

藩祖を祀る奥平神社所蔵の歴代藩主着用鎧、天下ご免白鳥の槍、陣営具、
衣装、長篠合戦図、鳥居強右衛門磔図、徳川家康親筆軍法事、吉宗花押領地
目録等、由緒ある著名な宝物をはじめ奥平家刀剣録、藩臣録、士族分限帖、
馬術、柔術、剣術、槍術、各師範範奥伝の書、絵画、古文書(家康親書)、
鷹狩り道具などを展示しています。

日本三水城(日本名城大図鑑)

中津城(大分県中津市)	中津川河口周防灘に臨む
築城者 黒田 孝高	築城年 天正16年(1588)
高松城(香川県高松市)	瀬戸内海に臨む 縄張 黒田孝高
築城者 生駒 親正	築城年 天正18年(1590)
今治城(愛媛県今治市)	海浜平城来島海峡に臨む
築城者 藤堂 高虎	築城年 慶長7年(1602)